

になる恐れ大です。何としても憲法改悪を阻止するため、よろしくお願いします。

◆無言館の絵に見入ります

東京都品川区 いしがき京子

貴重な「ニュース」良く読んでおります。中身もさることながら、表紙の「無言館の絵」に思わず見入ります。「一枚の絵」に久々に感じ入っております。

◆読者懇談会は楽しい

東京都あきる野市 佐橋弥生

「へえ、そうなんだ。」「オー、やつぱりね。」と、知らぬこと、知りたかったことを生で聞ける読者懇談会。

今回は「靖国問題とは何か」の辻子実さんが講師でした。ご持参くださった靖国神社、遊就館パンフ等を見ながらの、ユーモアあふれるお話に、時のたつのを忘れて聞き入りました。

何も言わず聞いていてもよし、自分の言葉で意見を言うのもよし。たった三百円で知識欲を満足させてもらえる読者懇談会。次回はどんな話かと、今からわくわくしています。



孫たちへ 私の小さな世界遺産

「英文・日本国憲法九条（焼印セツト）」

瀬川満夫

ベトナム戦争の頃と思うが、一人だけの仕事場（焼印作り）でラジオからの国会中継に耳をかたむけていたら、若い革新系の議員の質問かと思うが、それに保守系の大臣だったか次官だったかが「憲法九条九条とそんな青臭い書生のような理想論で、国が守れるか、めしが食えるか」との主旨の声高な答弁が耳に残った。

論理的には、九条が防衛（軍事）費を抑制してきたので、生活のための経済が成長し、めしが豊かにたべられるようになったので、感情的にはこの答弁は分からぬわけではないが政治家の発言としては全くのあやまりで、公務員失格である。

私はこの答弁から一つのアイデアがひらめいた。それは昔、父が瓦せんべい用の芭蕉の句を焼印にし、少年の私がそれをリュックに背負い、東日本一円の和菓子屋を一軒一軒訪ね売り歩いたことから、「そうだ、今、九条の条文の焼印を作り、それを手焼きせんべい屋に持ち込み焼き上げてもらい『九条（せんべい）』はたべられます、これをたべられず命を失っているアフリカの児たちへ届けたい、これが九条での国際貢献！」と。

小泉前首相が憲法前文の全文から「国際貢献で名誉ある地位を占めたい」との一行だけつまみ出し、ブッシュ政権からの自衛隊イラク派兵依頼に込んでいることが国際貢献と、憲法の心を全く逆用している発言に怒りを覚えた。

そして日米軍事同盟によって「集団的自衛権」の名で「ブッシュの戦争」に協力力の「日本軍」の海外参戦への途に通じる「九条改訂」への準備としての「国民投票法案」が国会多数で可決されたら：との思いにかられ、国民一人一人がその一票をお茶の間から「九条改訂ノー」へ投じていただくには、これまで選挙に行かず政治に無関心な層に、先ず九条の条文を読んでもらい、またその「成り立ち」が、お茶の間で話題になるよう「九条せんべい」を供することが出来ればとの思いに駆られています。

今年始め、このせんべいのことを知った地元テレビ局から「だれに一番たべて欲しいですか」との質問に「ブッシュ大統領と小泉首相です。どんな味がしたか聞きたいですね、両者にもインタビューして」と答えた。

私の行為に共鳴してくださる私立中学の教師が「九条を守るから九条を世界へ報せよう！」との提案で、来仙する海外のアーティスト（イムチジ合奏団等）たちへ「仙台市民から、日本から平和メッ

セージの贈り物です」と「九条せんべい」を手渡しました、この春、福島市を訪れた「もったいないの日本のコトバを世界のコトバへ」と提唱するノーベル平和賞のケニヤのワンガ・マータイさんに「もったいない九条せんべい」を作りアフリカの子に贈りたいことを話し合った。

そして、この秋、友人の中学教師が属する私立女子で創立百二十周年記念事業としてニューヨークから招いた、二十二歳の時占領軍の民生局員として男女同権の憲法二十四条を作成したベアテ・シロタさんに九条せんべいと「二十四条せんべい」を手渡し、二十四条も九条も当時世界の叡智を集め作成したものでだれが作るうが、いいものはいいので、それを六十年守り続けたのは日本の文化だ。九条改訂に反対し、二十四条、九条を世界へ拡げ伝えて行こうと語り合った。

私は今、十三歳でB29の焼夷弾の雨の下から六十年を生きたのび、三人の孫たちがその年齢に近づく姿を見て、日本国憲法の前文、最高法規、国民の権利等の各条を、英文、中国語、ハンゲル語での焼印を、余生の仕事として作り続け、遺したいと念ずるようになった。そして私の死後、いつかこの「憲法焼印」を使用し、世界の子ども、女性へ、だれかが大きく広めて行くことを願い、また、「昔、日本に戦争と武力放棄の憲法があったの

だ」と、戦乱の中で思い出すような世界にならないことを願う。

(せがわ・みつお 元仙台平連七十四歳)

九条実現 へんろ道中記

野津いさお

私は今、四国讃岐路を遍路姿で歩いています。意見広告賛同呼びかけちらしや『非武装パンフ』などをリュックに詰め、歩きだしてから八日、昨日は知る人ぞ知る捨身ヶ嶽禅定を、鎖につかみながら登って来ました。

今回の遍路は逆打ち（札番号の順に巡るのを順打ち、逆に廻るのが逆打ちと言います）ですので、歩き遍路とは必ず路上ですれちがいます。すれちがった人には立ち話をし、納め札（注）を交換して別れます。私はこれにちらしを添えて渡しました。セリフもだんだん決まってきました。「今の日本は悪い方向に向かっているように思えてなりません。色々の考えがあつて然るべきですが、それを許さない国になりつつあるように思います。これでいいのかなとの思いで遍路に出ました。私はある市民運動を手伝っています。詳しいことはこのちらしをご覧ください」と。

反応は区々です。殆どの人が無表情で聞くばかりです。声高に異を唱える人は殆どいません。ある若者は「武力は必要だ」と思う。武力を持つていなかったためにチベットは中国に侵略された。だけに自分は兵隊に行きたくありません」と最後は他人事になってしまふ。

へんろ休憩所を提供しているKさんは、私は自民党宮沢さんの流れを汲む立場だがと前置きして、「北朝鮮のテポドンを言うけれど、誰も見た人はいないし、証拠もない。人が騒いでいる裏で、重要な法案がどんどん通ってしまった。政治となると一筋縄ではいかない。憲法九条の問題も同様奥が深い・・・」など一時間近く話し込んだ。私の特性納め札（表裏で平和は創れない、よみがえれ九条！ 裏・日本国憲法第九条条文、いずれも木版）を備え付けノートに顔写真付で貼り付けて下さった。（立ち寄る遍路はいやが応でも目にするようになる。）八十番札所国分寺門前の若者たちが自力で立ち上げた食堂や、無言館のポスターを店入口に貼ったうどん屋などではちらし、非武装パンフ、「殺すな」シールを置いて来た。店を出る時、甘酒や麦茶ボトルのお接待を受け、九条実現遍路冥利に尽きるひとときです。

納め札コレクターに無理矢理、車に乗せられたり、四国遍路のために来日した